

「福井元気宣言」推進に関する施策

「福井元気宣言」に掲げられている「元気な社会」や「元気な県政」などのビジョンを着実に実現していくため、県民の理解と参加を得ながら、責任を持って職務を遂行し、特に、今年度は、次に掲げる施策・事業について積極的に取り組みます。

平成16年4月

福井県教育委員会教育長 西藤 正治

基本姿勢

- ・ 福井の未来を担う人づくりに向けた特色ある新しい施策を、教育界挙げて全力で実行します。
- ・ 家庭、地域、学校の連携による社会全体の教育力の向上を図ります。
- ・ 児童・生徒の能力や個性を最大限に引き出すための教育を推進します。
- ・ 県民一人ひとりの文化、スポーツ等の満足度を高めるための施策を実行します。

取組項目

重点項目

1 30人学級編制の導入

- ・ 子どもたちの持てる可能性を最大限に伸ばすため、ボランティア制度の導入やチーム・ティーチング、課題別・習熟度別学級等の少人数指導および少人数学級の編制等を内容とする「元気福井っ子笑顔プラン」を進めます。

小学校1、2年.....	ボランティア制度の導入（16年度～）		
" 3～5年.....	チーム・ティーチング、課題別・習熟度別学級等（16年度～）		
少人数学級編制.....	小学校6年	39人（16年4月）	36人（19年4月）
	中学校1年	37人（16年4月）	30人（19年4月）
	中学校2、3年	39人（16年4月）	36人（19年4月）

2 高校生の学力向上

- ・ 高校生の学力全国10位以内の実現をねらいとして、今年度は、普通科、総合学科設置校18校において新たに実施する高校生基礎学力診断テストをはじめ、学習合宿の実施、大学のオープンキャンパスへの参加等、各校独自の学力向上策を支援します。
- ・ 教科指導力の向上、進路指導の充実および学習時間の確保を図るため、大手予備校への教員の派遣および同校講師による教員研修会を開催するほか、教科指導や進路指導の中核となる指導的教員12人を配置します。

3 高校生の就職支援

- ・ 高校生の望ましい職業観・就労意識を形成するため、講演会の開催をはじめ、就業体験や職業適性検査を実施します。
- ・ 進路指導担当教員を対象とした実践的研修や卒業生の就職先企業訪問を実施します。
また、「高校生就職支援検討委員会（仮称）」を設置して、企業側とのミスマッチ等の諸課題を検討することにより、離職率の低下を図ります。
- ・ 地域産業界が求める人材を育成するため、職業系高等学校において、常に、企業ニーズを踏まえた多様な選択科目の開設や国家資格等の取得を目指したカリキュラムを編成します。
〔 16年3月卒業生の就職後3年間の離職率40%未満の実現 〕

4 スポーツの振興

- ・ 今年10月に開催する「全国スポーツ・レクリエーション祭」については、関係方面との連携を図り、全庁体制の下、成功に向けて積極的に取り組みます。
また、大会を一過性のイベントとして終わらせることなく、県全体のイメージアップにもつながるような取組みを推進します。
- ・ 県民体育大会と県スポーツ・レクリエーション祭を統合して、県民が気楽に参加できる幅広いスポーツ活動の場としての県民スポーツ祭（仮称）を、平成17年度に開催するための準備を進めます。

5 歴史・文化の香りただようまちづくりの推進

- ・ 一乗谷朝倉氏遺跡復元整備を促進するため、平成17年度からスタートする発掘整備計画(案)を、今年度中に策定します。
また、「一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会」を中心として、遺跡およびその周辺を資源とした観光振興や地域ブランド化の方策を検討します。
〔 ・発掘整備計画(案)...山城等の発掘調査、環境整備の推進
・誘客促進施策の充実...周辺アクセスの整備、全国に向けた情報発信力の向上等 〕

個別項目

1 学校教育の充実

(1) 英会話力の養成

- ・ 国際化社会において、幅広く活躍する人材を育成するため、児童・生徒の英会話力を養成します。

今年度は、小・中・高等学校において、外国人講師を招いた英会話教室等を実施するとともに、県内中・高等学校の英語教員180人を対象に、その指導力向上の研修(10日間)を行います。

英会話教室.....小学校36校、中学校8校、高等学校5校
18年度末の中学校3年生の英語検定3級保有率28%
18年度末の高校3年生の英語検定2級または準2級保有率30%

(2) 「中高一貫教育」の推進

- ・ 中高一貫教育研究会議を設置し、福井県にふさわしい中高一貫教育を推進するため、6年間を通じた計画的・継続的なカリキュラムの編成や指導方法の工夫および中高の交流活動を研究し、平成17年4月からの本格実施を図ります。

研究推進校...金津高校 - 金津、芦原中学校、丹生高校 - 朝日東中学校
美方高校 - 美浜、三方中学校

(3) 高校入試制度の改善

- ・ 「高校入学者選抜改善検討委員会」において、受験機会の複数化や学校独自問題の作成および入学後の進路変更システムの弾力化等について引き続き検討し、生徒の能力・適性を伸ばすとともに、多様化する進路希望に対応した特色ある高校づくりを進めます。

(4) 不登校等対策の総合的推進

- ・ すべての児童・生徒が楽しくいきいきと学校生活を送るために、学校間の交流活動、子どもの話し相手となる大学生の派遣等不登校の未然防止を図ります。

また、電子メールによる児童・生徒の悩みや不安についての相談およびマスメディアを活用して、家庭や地域においての不登校の発生防止、対応等を図ります。

- ・ 県立高校における中途退学者は、全国に比べ低い状況にありますが、引き続き専門的なカウンセリングの知識や技能を身に付けた教員を配置し、中途退学者等の未然防止を一層図ります。

(5) 県立高校の冷房設備の整備促進

- ・ 今年度は、新たに県立高校10校において、冷房設備の整備促進への支援を行います。

15年度..... 7校
16年度..... 10校
17、18年度..... 15校(全校完了)

(6) 南越地区養護学校(仮称)の建設

- ・ 南越地区に養護学校を建設し、養護教育の充実および遠距離通学の解消を図ります。

設置場所	武生市上大坪町・萱谷町地係
就学予定人員	80名(幼・小・中・高等部)
開校	17年度

2 教員の資質向上

(1) 教員採用試験

- ・ 「元気福井っ子笑顔プラン」の実現などに対応するため、教員の中期的な採用計画を策定し、優秀な教員の安定的な確保を図ります。

(2) 教員研修の充実等

- ・ 学校教育の成否は、教員の双肩に大きくかかっています。その教員の研修の中心的役割を果たす教育研究所において、企業経営者等を交えた「教育研究所運営協議会(仮称)」を設置し、学校経営や学習、生徒指導を内容とする研修の在り方や充実について、専門的かつ多面的に見直しを図ります。

更に、シンクタンク機能、情報機能、相談機能等を充実し、時代の要請に応じた学校教育の実現のための調査・研究、情報収集の実施および相談体制を確立していきます。

- ・ 指導力不足等教員については、校内指導や校外研修等を行い、指導力の向上を図ります。

(3) 校長・教頭選考試験等

- ・ 校長・教頭選考試験の面接において、経済界やPTAの代表を面接員に加え、学校経営に優れた資質・能力を有する教員を登用します。

また、女性校長・教頭の積極的な登用に努めます。

17年4月の女性校長・教頭の登用率22%(16年4月現在18.8%)

3 家庭・地域・学校の連携、生涯学習の振興

(1) 「福井型コミュニティ・スクール」の推進

- ・ 今年度は、新たにモデル校を11校追加指定(累計14校)し、保護者や地域の代表と学校関係者で構成する「地域・学校協議会」による地域に開かれた学校づくりを進めます。

コミュニティ・スクール設置市町村.....	15年度	3市町村(累計3校)
	16年度	14市町村(累計14校)
	18年度	全市町村(累計36校)

(2) 地域での社会教育の向上(コミュニティの形成)

- ・ 地域が主体的に運営するふれあい会館の整備を進めるとともに、市町村が設置している公民館の活性化計画の策定等地域でのコミュニティの形成およびその教育力の向上に取り組みます。

(ふれあい会館の整備.....年間10館)

(3) 生涯学習機会の充実

- ・ 県立図書館の運営については、開館日の拡大や開館時間の延長、ボランティアの募集等様々な努力を進めてきましたが、更に、幅広い県民の意見を踏まえるため、「図書館運営懇話会(仮称)」を設置し、より一層の利用向上および機能の充実を検討していきます。

4 ふくい文化の創造およびスポーツの振興

(1) 公共施設(文化施設)の利用促進

- ・ 嶺南地域において、移動美術館(年3回)および移動企画展(年1回:今年は一乗谷朝倉氏遺跡資料展)を引き続き開催します。

更に、嶺南地域から福井市内の中核的文化施設への直行送迎バス「フレンドリーアート号」の運行(年8回)を継続します。

- ・ 文化施設については、民間企業の経営手法の導入を検討する等コスト意識を重視した運営を推進するとともに、県民サービスの向上を図ります。

(2) 文化の振興

- ・ 平成17年度に開催する国民文化祭については、関係団体や市町村と十分連携を取りながら、着実に準備を進めるとともに、今年10月から11月にかけて、プレ国民文化祭を開催します。

- ・ 国民文化祭後を視野におき、歴史的遺産の活用や人材の育成など「ふくい」文化の振興に向けた取組方策を検討します。

また、本県ゆかりの歴史的人物を全国に向けて情報発信し、地域ブランドを高めます。

(3) スポーツイベント等の開催

- ・ 本県で開催される、2005少林寺拳法国際大会(17年10月開催)や第56回中部日本卓球選手権大会(今年8月開催)等においては、来県者への本県のイメージアップに努めるとともに、その成果を後年に活かし、県内スポーツの振興を図ります。